




Ⅱ -A-6 真理とグローバル化したメディア



2010年、ケープタウンに全世界から4,000名の福音派の牧師、教師、宣教師、神学者らが集い、21世紀の教会の宣教のあるべき姿を定義した。前半は教理、後半は実践



情報化社会における信仰者の生き方

聖書箇所：ヘブル人への手紙12章2節

2017年11月5日

於 ICBC

「日本最大の本屋」って？

丸善ジュンク堂梅田店

蔵書数：200万冊

日本で一年間に出版される書籍数

約78,000冊

1日当たり約215冊

MARUZEN & JUNKUDO



インターネット

インターネットに1日にアップロードされる情報量
1日にアップロードされたテキスト(文字)を
音声で読み上げたら、、、

800万時間

=33万年

YouTube

YouTubeに一日にアップロードされる動画の合計時間

約57万時間

= 約65年間分

= 1分あたり400時間

全世界で人々が一日にYouTubeを視聴する合計時間

10億時間を超える

= 114,000年分

2016年の「今年の言葉」(オックスフォード辞典)

THIS MODERN WORLD

Post Truth (ポスト真実)

「世論を形成する際に、客観的な事実よりも、むしろ感情や個人的信条へのアピールの方がより影響力があるような状況”について言及したり現したりする形容詞」(オックスフォード英語辞典)

トランプ大統領が選挙中についた嘘

- ☑ アメリカの実質的失業率は42% (実際は4.9%)
- ☑ オバマ氏がISの「創始者」でヒラリー氏は「共同創設者」



SNSで「ニュース」をシェアしている人のうち6割は、本文を読まずにシェアしている。(米仏の共同研究チーム)

マーク・トウェインの言葉

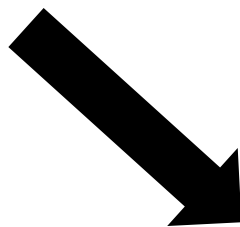
「真実が靴を履いている間に、嘘は世界を半周する。」

偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。 ルカによる福音書12章56節

ひとつのたいせつな「問い」

情報化社会に生きる私たち現代の信仰者は、
いったいどのように「真実と嘘」を見分けられるのか？
いったい私たちはどのように、
「情報の洪水」に押し流されずに生きられるのか？

情報化時代に生きる私たち現代の信仰者は、
いったいどのように「真実と嘘」を見分けられるのか？
いったい私たちはどのように、
「情報の洪水」に押し流されずに生きられるのか？



21世紀に固有の問題
情報受信の4つのギモン

普遍的な問題 → 聖書に「答え」があるはず

10代からの情報
キャッチボール
入門

下村健一
Shimomura Kenichi

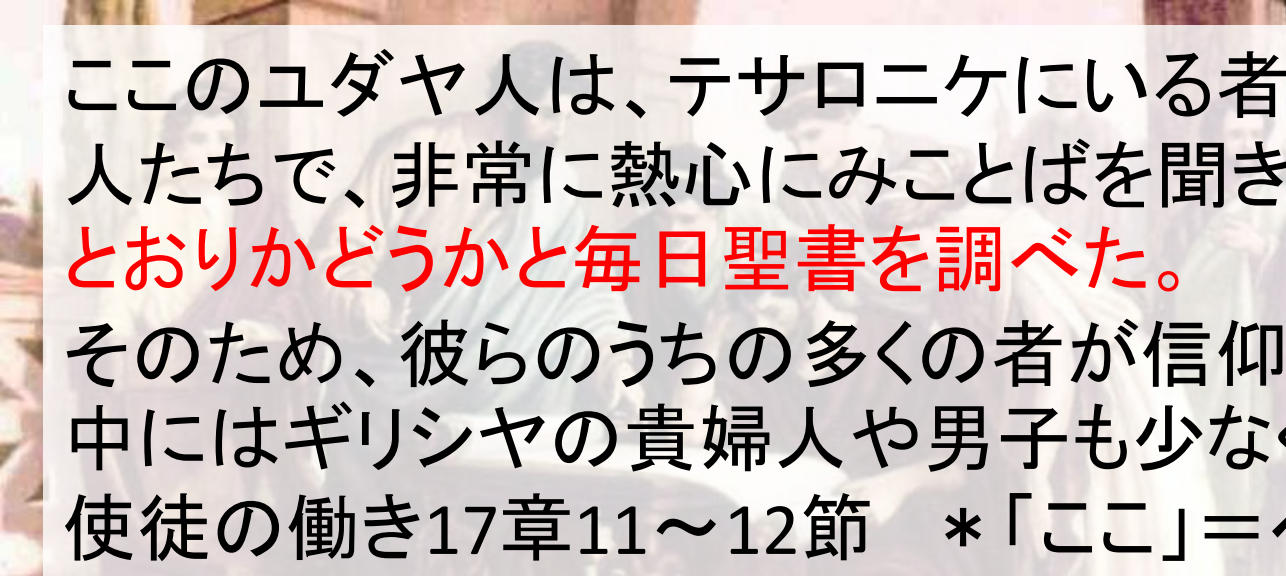
10代からの情報キャッチボール入門
使えるメディア・リテラシー 下村健一(2015)

「情報受信の4つのギモン」(P93)

- ギモン1 まだわからないよね？
結論を即断するな＝「飛び出すな」
- ギモン2 事実かな？意見・印象かな？
ごっちゃにして鵜呑みにするな＝「よく噛んで食べましょう」
- ギモン3 他の見え方もないかな？
ひとつの見方に偏るな＝「好き嫌いするな」
- ギモン4 隠れているものはないかな？
スポットライトの周囲を見よ＝「左右確認」




ひとことと言うと、、、
「自分の頭で考えよ」ということ。
「批判的思考力」「複眼的視角」を持つ
→「自分を疑う力」「立体的に考える力」



このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、**はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。**

そのため、彼らのうちの多くの者が信仰に入った。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少なくなかった。

使徒の働き17章11～12節 *「ここ」=ベレヤ



聖書はベレヤの信者の何を褒めているのか
「疑う」という美德。→「自分の頭で考える」。
「批判的思考力」「複眼的視角」を持つ。
「自分を疑う力」「立体的に考える力」。



ネット社会の「情報受信の4つのギモン」と共通。



情報化時代に生きる私たち現代の信仰者は、
いったいどのように「真実と嘘」を見分けられるのか？
いったい私たちはどのように、
「情報の洪水」に押し流されずに生きられるのか？

21世紀に固有の問題
情報受信の4つのギモン

普遍的な問題 → 聖書

- ① エペソ人への手紙4章11～15節
- ② ピリピ人への手紙4章6～9節
- ③ ヘブル人への手紙12章2節

使徒の働き17章11～12節
ベレヤの信者たちの実践

①エペソ人への手紙4章11～15節

こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、**教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるため**なのです。

「情報の洪水」に流されない秘訣

A. 共同体の存在

B. かしらなるキリストという目標を持つ

②ピリピ人への手紙4章6～9節

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

「情報の洪水」に流されない秘訣

C.心が神の平安に満たされていることが大切

D.「情報の買い物リスト」(情報過多の時代には引き算が大切)

E.良い情報(御言葉)を内面化する(知行合一の大切さ)



the
GREAT
STONE FACE

「人面の大岩」
ナタナエル・ホーソーン
(初版1850年)

主人公:アーネスト

少年期に街に来た「瓜二つの人」:ギャザー・ゴールド氏(ビジネスマン)

青年期に街に来た「瓜二つの人」:ブラッド・アンド・サンダー将軍(軍人)

壮年期に街に来た「瓜二つの人」:ストーニー・フィズ大先生(政治家)

老年期に街に来た有名な詩人が、アーネストの家に泊まる、、、

☑アーネストが惑わされなかった理由

☑彼が言い伝えの「人面の大岩の生き写し」となった理由

アーネスト = 「熱心な、誠実な、真心の」

詩篇63篇1節

神よ。あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない、砂漠の衰え果てた地で、私のたましいは、あなたに渇き、私の身も、あなたを慕って気を失うばかりです。

→ “Earnestly I seek you.”

アーネストの「毎日大岩を見つめる時間」は何の象徴か？

、、、毎日のデボーション。

なぜ、私たちは毎日、「デボーション」をするのか。

今日、何かが変わるため？今年？、、、いや、生涯。

毎日イエスを見つめ続けた人はイエスに似た人になる。

情報化社会にもっとも強力な「解毒剤」はイエスに似た人。

「情報の洪水」に流されない秘訣

- A. 共同体の存在
- B. かしらなるキリストという目標を持つ
- C. 心が神の平安に満たされていることが大切
- D. 「情報の買い物リスト」(情報過多の時代には引き算が大切)
- E. 良い情報(御言葉)を内面化する(知行合一の大切さ)

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。 ヘブル人への手紙12章2節

- F. 毎日祈る習慣をもち、熱心にイエスを見つめ、イエスから目を離さないこと。